

老化現象

大 日 向 幻

私の人文演習（二年生以上）に２５名の学生がいるが、そのなかに一年生のときに私の英語のクラスにいた人がある。だが、そのことが私にわかっていないことが判明した。私の怠慢によるのだが、ひとつにはどうも男女を問わず若い人が同じように見えて困る。これは老化現象の一部らしい。そんなに私は年をとったのかと思い、私より７、８才若い同僚数名に聞いてみると、似たような経験をしていると言う。何となく少し安心したような気がした。

先日２５名の学生を記憶しようとして、時間をかけて一人一人の名前を呼んだ。考えてみれば、自分がしゃべっているときには学生の顔を見ているけれども、学生の名前は意識していない。出席をとっているときは出席簿の名前を見ているが、学生の顔は見えていない。それでとにかく一人一人の顔を見ながら名前を呼んだ。おそらくこの時期に自信をもって言えるのは記憶している、つまり相手を確認できるのは、８、９名だということだ。名前を呼びながら感じたことであるが、Ａ君とＢ君は明らかにちがいが、ＣさんとＤさんは明らかにちがうけれども、やはり似ていると言えれば似ている。

二十数年前、本学に奉職して数年を経た頃、私は総研の副室長であった。副室長をして一年が経ったころ、当時室長であったＹ教授が何かの会議で私に「オーコーチ君もがんばって・・・」と言われた。私の名前は変っているが、それにしてもこの先生は私のことをオーコーチ君と思っていたのかと思った。

さてそれでは神さまは私たちのことを、どれくらい知っておられるのか。聖書には「あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている」と書いてある。何たる能力。私の髪の毛の数はめまぐるしく変化しているというのに。ありがたいと言えればありがたい、恐ろしいと言えれば恐ろしいことである。ごまかしがきかない。だが聖書は続けてはっきり言っている。「だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている」（マタイ１０：３０、３１）と。

（商学部教授）